

# 2020年1月29日 AI（人工知能）を理解して、ビジネスチャンスに

AI(人工知能)は私たちにとって”救世主”か、それとも”怪物”か?  
「AIを理解して、ビジネスチャンスに…」

人工知能 AI (Artificial Intelligence)

## 第1章 共感するAIと人間

AIは既に身边に存在している。

### 1- ソフィア(Sofhia)

2015年、香港のロボットメーカー「ハンソンロボティクス(Hanson Robotics)」の創設者デビッド・ハンソン(David Hanson)博士が開発したAIロボット「ソフィア(Sophia)」

<https://ainow.ai/2019/10/01/176315/#1>

人間に似ている代表的なロボットで、顔を人間と似た質感で表現し、対話に応じてねじれた首のしわの質感などは特に、人間らしさを感じさせる。 生きているロボット

### 2- りんな

2015年8月、日本マイクロソフト開発の会話型AIロボット。

女子高校生とリアルに会話が出来る、りんなは「AIと人だけではなく、人と人とのコミュニケーションをつなぐ存在」で、「日本で最も共感力のあるAI」である。 2019年3月、登録数約763万人突破

<https://www.rinna.jp/profile/>

### 3- SELF(セルフ)

人工知能(AI)と会話できるアプリ。 人とロボットの恋愛が目標

好みのAI美女と個人的な会話ができる。 ¥180円/週(払わないと消える)

開発は、SELF株式会社 CEO:生見 臣司

<https://self.software/>

### 4- Empath(エンパス)

Empathは、人の声で感情(平常・喜び・怒り・悲しみ等)を解析する、音声感情解析AI。

現在、コールセンター等で使われている。

株式会社Empath 代表 下地 貴明 音声感情解析AIの開発・販売

<https://webempath.com/jpn/>

### 5- ロボケン

AIが人の顔の表現を7種類に解析する。会社の面接時の人事部向けに開発

株式会社ロボケン 代表取締役 寺田宗紘 脳科学に触発されたAI開発

<https://robo-ken.jp/>

## 第2章 革命を制する者は…

現在、AIでの社会問題解決は加速しているが、開発競争はAIの精度が勝敗を決める。

それがDeep Learning(深層学習)技術で、AIが人間の様な知能を持ったコンピュータとなる。

### 1- AIで進化した、ホームセキュリティー・システム

AI技術を使い独自の防犯システムを開発した、サンフラワーラボ社のアレックスパチコフ社長  
侵入した物をAIが分析し、人間なら、行動パターンから家主か不審者まで見分けるという。

<https://www.sunflower-labs.com/>

### 2- 小売店舗用レジ無人化システム

AI技術で小売店舗向けレジ無人化システムの開発を手掛けるStandard Cognition(スタンダード・コグニション社)は、日本の創業120年の化粧品・日用品・一般用医薬品卸業界のトップ企業、株式会社PALTACで、日本で初めて、Standard Cognitionのレジ無人化システム「Standard Checkout(スタンダード・チェックアウト)」を採用したことを発表した。

<http://www.standardcognition.com>

<http://www.paltac.co.jp/>

### 3- 自動運転車のデリバリーサービス

アリババ出資のオートX社が、米カリフォルニアでドライバーなし自動運転のデリバリーサービスを開始

## 第3章 20年前の日本の過ち

このまま日本は遅れて居て良いのか？

### 1- 世界はGAFAに

日本が完敗し遅れを取っている間、GAFA(Google・Amazon・Facebook・Apple)が世界をリード

### 2- 中国はAIプロセッサー最先端技術

中国では北京市の中関村(チュウカンソン)は、深センとともに中国のシリコンバレーと言われるAI拠点で、国が9兆円投資している。

その中、地平線(Horizon Robotics)社は、AIプロセッサー開発で世界の最先端を進んでいる。

<https://horizon.ai/>

### 3- 日本で、世界的に頑張っている企業

#### (1). 株式会社ディープコア

AI挑戦者を起業家として育成する、インキュベーター 兼 ベンチャーキャピタル

代表取締役社長仁木 勝雅、株主ソフトバンクグループ株式会社 100%  
顧間に松尾豊(東京大学大学院教授)・孫泰蔵(兄は孫正義)

<https://deepcore.jp>

(2). メドメイン株式会社

AI画像分析技術のDeep Learningを用いた病理画像診断の解析システムの開発・運営  
例えば、今まで数週間かかっていた、胃がんの画像分析をAI分析し、30秒で98%の判定  
福岡市 代表取締役 飯塚統(27才) 上記(株)ディープコアの支援会社

<https://medmain.com>

(3). 株式会社VAAK(バーク)

人工知能の眼で社会課題を解決する。  
例えば、防犯カメラ×AIで、万引きの防止や無人レジによる新しい購買体験を実現する。  
代表取締役 田中遼 上記(株)ディープコアの支援会社

<https://vaak.co>

(4). 株式会社Preferred Networks (プリファードネットワークス)

最先端の技術を最短路で実用化する  
AI技術深層学習などの最先端の技術を最短路で実用化することで、これまで解決が困難であった現実世界の課題解決を目指している。  
例えば、「ひの木の木く目を選別するAIロボット」や「全自動お片付けロボットシステム」の開発  
代表取締役社長 西川徹(36才)

<https://preferred.jp>

(5). その他、人工知能(AI)の最新技術の企業を紹介

<https://chimanho.jp/news/20-ai.html>

## 第4章 AIが人間の“知能”を超える時…

### AIに好奇心(目標)を与えると、益々賢くなる

1- 囲碁AI・AlphaGo(アルファ碁)

2015年10月に、グーグル社傘下のイギリスの人工知能企業(Google DeepMind)ディープマインド社が開発する囲碁AI・AlphaGo(アルファ碁)が人間のプロ囲碁棋士に初勝利し、2017年5月には 世界トップ棋士である柯潔(カ・ケツ)に勝利した。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/AlphaGo>

<https://tech-camp.in/note/technology/32855/>

2- 将棋プログラム「Ponanza」(ポナンザ)

2017年5月、人工知能(AI)の将棋プログラム「Ponanza」(ポナンザ)(開発者山本一成)が、将棋界最高位の「名人位」をもつ佐藤天彦名人に勝った。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/Ponanza>

<https://data.wingarc.com/issei-yamamoto-ponanza-12528>

☆今や、囲碁も将棋も、AIの挑戦相手は人ではなくAIである。

3- 将棋ソフトが「AIトレーダー」に進化！

株式投資予測システム「HEROZ Kishin」

HEROZ株式会社 代表取締役 林隆弘・高橋知裕

HEROZは、将棋AIの開発を通じて蓄積した深層学習を含む機械学習によるAI関連手法をコア技術とし、現在は、将棋に限らず様々な課題を解決するAIとして進化した、株式投資予測システム等の「HEROZ Kishin」を各産業に提供している。

<https://heroz.co.jp>

4- AIが人間を超える時…

☆ 囲碁・将棋・株式…が人からAIに取り替わっている。

AIにさらに賢くなり、AIに好奇心(目標)を与えると、益々賢くなる

## 第5章 最終章

### 人の心を持った、人の為になるAIを人間が作る。

1- AIが人間の“知能”を超え

2- 人より優れたAIが人間を支配する

3- いずれAIが成長し人類を滅ぼす

4- これが、2045年問題とも呼ばれている「シンギュラリティ」

5- 「シンギュラリティ(技術的特異点)」とは、

AIなどの技術が、自ら人間より賢い知能を生み出す事が可能になる時点を指す言葉。

米国の数学者ヴァーナー・ヴィンジ氏、人工知能研究の権威レイ・カーツワイル博士も提唱する概念

<https://ledge.ai/singularity/>

6- 「人の心を持った、人の為になるAIを人間が作る」事が大切である。

7- 「AIを理解して、ビジネスチャンスに…」→ 人工知能(AI)の最新技術の企業を紹介

<https://chimanho.jp/news/20-ai.html>

以上